

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號二第

卷二十二第

行發日一月二年五十五大

論叢

國際課税の主義論争……………法學博士 神戸 正雄

單一税の實現性……………法學士 汐見 三郎

純正現象學の方法論及び問題論……………文學博士 米田庄太郎

萬民經濟交通の發展……………法學士 作田 莊一

時論

勞働爭議調停法案に就て……………法學博士 河田 嗣郎

說苑

露國金融制度の變遷……………經濟學士 谷口 吉彦

スミスの植民地觀に關して……………法學博士 山本美越乃
再び矢内原教授に應ふ……………

雜錄

神社救貧制度の一例……………經濟學士 黒 正 巖

法令

營利職業紹介所事業規則

(禁轉載)

世界經濟の成立過程 (二)

作 田 莊 一

四 萬民經濟交通の發展

同じ世界を範圍とする經濟交通でありながら、國際經濟交通に比べて一步後れつゝ、殆ど之と並行して發展し來れるものは、即ち萬民經濟交通である。此種の經濟交通も亦國際方面に於ける如く三つの小階段に分たれ得る。最初には早くより世界の各地に跨りて斷片的・亂雜的に各箇經濟の相互交通が行はれ、次には其等が開展して一定の系統及び秩序を具ふるに至るとき、其處に萬民經濟を成立せしめ、終には萬民經濟が更に轉じて其系統及び秩序を延長し、各國民經濟を其下に關聯せしむるのである。

第一に各箇經濟の相互交通の發展を見るに、已に國民經濟成立以前にありても、人々が單に箇人として國境を越へて貿易又は移住を試みたる事例は決して少くない。但し其は部分的・間歇的に行はるゝに止まり、其が包括的・繼續的となつたのは、國民經濟の成立以後に於て國際經濟交

通の發展と相伴へる出來事である。國際經濟が開展して各國内經濟を聯結するまでに立至れば、箇々の國民經濟相互間の通路が廣く開放されて、多くの人々は國境の拘束を離るゝ所の經濟交通をなすに至る。人々の交通上の地位や自分は國家統制に結び付けらるゝ國民であつても、其活動の境涯は國民的でなく、單に箇人として廣き世界の範圍に於て其經濟的欲求を充たさうとする行動が許さるゝ。世界に於ける各箇經濟の相互交通は其基礎を箇人的社會性に置き、其條件を國際經濟交通の發展に置く。従つて是處にも亦廣く世界に亘りて交通路が開かれ居ると言ふことが必要の前提となる。

先に述べたる國民經濟の對外交通と雖も、交通當事者は國家を除いては私人たる各箇經濟である。されど此場合に於ける各箇經濟の交通行爲に就ては、其が國民經濟に立脚し、其の經濟組織の内外を分ち、涉外交通が意志國民經濟に何等かの原因を有し又は結果を與ふるものであると言ふ點を目標として觀察するのである。然るに茲に言ふ所の世界に於ける各箇經濟の相互交通に就ては特別の意味を持たしめ、各箇經濟が單に自己の經濟目的を意識するのみにて、國民經濟上の意志に則り又は之に添ふて行動することなき内外無差別の交通をなすものであると言ふ點を目標として觀察するのである。

世界に於ける各箇經濟の相互交通は次の諸點に於て國民經濟の對外交通と區別し得らるゝ。其

一は各箇經濟の交通行爲が私人たる箇人又は社團の間に行はるゝものに限られ、國家又は政府の行爲を包含しない。後者は例へば政府の外債募集の如く全く國民經濟の一定目的の下に行はるゝ對外交通である。其二には各箇經濟の相互交通は國家の指圖又は委託に依らざる行動である、其ならば國家の行動に準せらるゝ。例へば海運會社が政府の命令航路に従事し又は銀行が政府の委託を受けて對外金融に従事するが如きは各箇經濟の交通ではない。其三には各箇經濟間の交通は國家の定めたる制度又は政策に依據する場合でなく、國家統制が各人の自由行動に放任する範圍に於いて行はるゝもつである。例へば國家の獎勵金を受けて行ふ貿易や海運や、若くは其認可を經て外資を借受くるが如き場合を除外する。其四には各箇經濟間の交通は私人としても國民經濟の目的を遂行する意圖を以てせず、全く箇人的欲求に出づる行動を謂ふ。例へば爲替銀行が對外收支の調節を計るが爲めに採算以外の相場を定めて爲替を取扱ふ場合と異り、人々が自己の利益の爲に爲替投機を試むるが如し。其五は各箇經濟間の交通は國民經濟上の統制に反してまでも行はるゝ。例へば密輸出入の如き、資本持出を禁止せる際に密かに外國銀行に預金するが如き、秘密結社を設けて外國ノ同志と共に經濟革命運動を試むるが如し。要するに各箇經濟の相互交通が國民經濟の對外交通と異なる所は、一が國民の立場に於てし他が箇人の立場に於てするにある。國民經濟は意志體としての國家の統制により、團體經濟の保存及繁榮の目的に適應する交通系統及

秩序を立て、其の下に於て自國民の長所及短所を涉外關係によりて調和しようとするのであるが、政府は勿論、其系統及秩序に従つて行動し、私人と雖も能動的又は所動的に同様の行動に出づると認めらるゝ限りは之を國民經濟の對外交通と見る。之と異り私人が國民經濟上の目的以外に立ちて簡人的生活の目的遂行に止まると見らるゝ内外人間の交通は各簡經濟の相互交通に屬する。但し簡人目的の行動と雖も國民經濟上の目的に照らして國民經濟の消長に双關又は因果の關係を有する方面より考察する場合には、其の限度に於て之を國民經濟の對外交通と見るのである。例へば一商人の純營利的なる貨物の輸出入行爲と雖も、之を國民の一般需供の適合又は對外收支の對照に關係せしめて見るときは、其點だけは國民經濟の對外交通の範圍に加へらるゝが如し。

世界に於ける各簡經濟の相互交通と雖も、國民經濟が未だ自然經濟に止まる間は、特に國民經濟の對外交通と區別せらるゝ特徴なく、政治的一般秩序の境界より見れば國の内外の區域は存するも、經濟上の見地よりすれば二種の交通も共に國內交通が地域的に國外交通に延長されたものに過ぎない。然るに國民經濟が意志經濟となるに及べば、自然經濟時代に無差別であつた内外間の交通が、意志經濟的系統及秩序に照らし之に變化を生ずるものと見らるゝ所の對外交通と、斯かる視界を脱して單に地域的に國境を越へ世界を範圍とするものと見らるゝ所の簡人間の相互交

通とが區別されて來る。従つて各箇經濟間の相互交通の發展と言ふも、特に國民經濟の對外交通と全く別箇の新しい交通事件が発生すると云ふ譯ではなく、國際經濟が自然經濟より意志經濟に進化する際に、内外人間の交通の中にて、國民經濟の對外交通と別種に屬すると見らるゝ各箇經濟の相互交通が性質的に區別され、又其意味に於て發生するのである。尙ほ一般に内外人間の交通が進展するときは、對外交通と共に各箇經濟的交通も亦進展するのである。

第二に、世界に於ける各箇經濟の相互交通が發展し行くときは、其結果として國際經濟と撰を異にする萬民經濟が成立する。各箇經濟の相互交通は極めて多數の交通單位の間に發生し複雑多様の關係を結ぶ譯なるが、此種の交通はもと對外經濟交通を成立條件とするものにて、對外交通が系統的・秩序的となり國際經濟となるに従つて此の交通も亦同様の形態に導かれて來る。但だ國民經濟の現在の系統及秩序を破壊せんとする世界的革命運動の如き各箇的相互交通は、國家及國際團體の壓抑甚しき間は系統及秩序の列に入り得なかつたが、是すらも次第に其の壓抑が寛るやかになるにつれて系統的・秩序的となつて來た。現時、各箇的相互交通の中、最も整へる系統及秩序を具ふるものは、私企業者及一般人の間に行はるゝ商業であり、投資及爲替の金融もやゝ之に比すべきものである。特に商業が世界の市場に貨物配給の網を張り、廣く且つ絶えず箇別的

需要及提供の適合を計る所の機構及作用は最も著しく整然たるものである。「ヘラウエル」氏の世界商業學は此の貨物の世界的配給を行ふ所の各簡的交通を對象とするのである。併し私の用語によれば、其は萬民商業であつて世界商業ではない。世界商業は萬民商業の外に國際商業が加はり、且つ其は前者に比し同等以上の意義を有する。

國境を越へて行はる各簡經濟の相互交通に於て系統及秩序が成立するときに、其が萬民經濟と呼はるゝ。萬民經濟の系統及秩序は國際經濟の其等を條件として成立つが、併し後者が本質的には自然的なるも作用的には意志方に依ると異り、前者は全く自然的系統及秩序なるを特色とする。其處には何等の立法なく監督なく企畫なく經營なく、唯だ必然的運命的に發生し來るのである。謂ゆる國際「カール」或は「ツラスト」の如き、又勞働組合或は勞働政黨の謂ゆる國際聯合の如き、私の概念によれば國際的でなく萬民的である。是等の社團其もの、内部には簡人間の意志的交通系統及秩序が存在するも、外部關係に於ける萬民經濟上の事象たる點に於ては一の自然現象に外ならぬ。系統及秩序の最も整へる商業及金融の如きも、今日尙ほ其進退は全く自然の手に握られて居る。自然經濟現象の一大奇觀たる恐慌の如きも——批判を容れない自然現象としては其は少しも奇觀でない、意志の立場から批判的に見るから奇觀である——、國民經濟では意志統制が進歩するに従つて其の運動を弱め行き、國際經濟に於てすら政府相互の協力によりて幾分其

の爆發及蔓延を抑へ得るが、萬民經濟にありては、唯だ其成行に放任する外はないのである。

第三に、萬民經濟の成立はやがて其下に於ける各國民經濟の關聯を誘致する。國際經濟は國民經濟を隔つる城壁に通路を作るものであるが、萬民經濟の伸張は、其々領分を限定する國民經濟間の境界堤を切下げて、其等の世界一帯の平地に變へやうとする。其の著しき事例は先づ國民的生産分業が段々と萬民的生産分業に、國民的流通市場が次第に萬民的流通市場に擴大され行く状態に之を見る。國民經濟内の生産分業は其の對外交通の開くるに及んで國際的分業に移り行くが、此分業は尙ほ國民的意圖に由りて或程度まで不自然なる人爲的方策に左右さるゝ。然るに此の人爲的分業は更に萬民經濟の勢力のより強き部分にありては復た自然的状態に變へらるゝ。此の分業状態は更に流通状態と相伴ひ、或程度までは國境は有れども無きが如く、唯だ良質廉價なる貨物が需要され、其を提供し得る所に企業が起さるゝ。

次に國民經濟を萬民的に關聯せしむる現象の中、特に重大なる意義を有するものとしては、資本主義の萬民的支配と労働主義の萬民的運動とを擧げなければならぬ。企業より見たる近代各國の經濟組織は資本主義制の全盛時代であるが、之に反抗して労働者運動が勃興し、一は現實の支配力として、他は其を破壊しようとする實行力として、一が世界的に羽翼を伸ばすに従つて他も

世界的に戰陣を張りて、双方から國民經濟を萬民的に關聯せしめて來た。

先づ資本主義の支配に就て言へば、各國の産業資本家、殊に英米獨佛等の金融資本家は、自己直屬の機關に依り又は其勢力範圍に屬する多くの投資企業を通して廣く世界の市場に投資網を擴げ、其の逐ふ所は利潤の收得の多少であり、其爲めには必しも國境の——地域的にも——内外に關心を持たない。資本主義はもと國民經濟に於て自然經濟的に發生し、次で國家の保護に依りて般盛を極むるに及んで更に自然經濟的なる世界の市場に進出した。其の行動及現象は本質的には國民經濟の成長とは別箇の軌道を進る所の箇人主義的階級運動であるから明かに萬民經濟の範圍に屬するものである。此等資本家階級の勢力は殆ど一國財政の要部を左右し、從て此の財政を通して國際政治に於ける和戰の決定にすら重大なる勢力を及ぼすまでに立到つた。此狀態は之を世界に於ける財閥資本主義の支配と謂ふも差支ない。

財閥資本主義者の階級は自己の利益を確實ならしむる爲めに、單に國內に於て國家を利用するのみならず、更に世界に於ける資本主義活動を後援せしむるやう自己の屬する國家を其方向に誘致する。國家も亦其國策を實行する爲めには現實の經濟運營の大勢力たる資本家を利用しようとし、殊に國家の重要機關に立てる人々が資本家なるか又は資本家階級の擁護によりて其地位を保持しようとする場合——米國は其の最も著しいものである——には、國家の意志統制は主として

國內に於ける資本主義制を確保するのみならず、進んで世界の市場に於ける自國資本家の活動を援護し、時には指導し、國民經濟は資本主義國家に率ひらるゝ組織體の如き觀を呈して相互に接觸交渉する。國家が單に國民資本主義制を認容するのみならず、其上に對外的にも財閥資本主義活動を後援し又は指導する態度を見るときは、其處に財閥資本主義以外に、世界に於ける國家資本主義の行動を認め得る。此は國家が國有資本を以て自ら産業經營の局に當る所の國民經濟上の國家資本主義と全く別物なることは言ふを待たない。

世界に於ける國家資本主義と財閥資本主義とは從來概ね一心同體の如く行動するが、其よりも先づ國民經濟に於て國家が資本家階級の利益を代表せる觀あるが故に、二者は本質的に同一者なりと誤解され易い、併し其は恰も主人と番頭とが同一の行動を執るが故に二人は同一人であると思ふ。併し眞相は其時々力に強き方が弱き方をより多く利用して居るのである。國家と資本家階級との關係も之に類する。通俗的に言へば國家機關を構成する人々が鋭敏なる國家的良心を有するや否や、時代の趨勢を明察する判斷力を有するや否やに由つて、資本家階級に對する國家の地位が相違して來る。

古代の國家であつても、自然經濟の成行に放任しかねて、土地分配の如き當時にありては根本的改革と見るべき經濟政策を斷行せる實例もあるが、意志薄弱にして再び自然經濟の橫行するまゝに放任した。近代國家の確立するに及んでも、初めは社會の一般秩序を保持するを以て主要の任務となした。近代社會經濟の組織及運営は資本主義制であり、國家は此體制に加擔すること
が最も容易なる且つ當然なる一般秩序維持法であつた。次で國家が交通經濟の系統及秩序を自己の統制に收むるに及んでも尙ほ此の自然經濟的資本主義制を相續して意志的經濟組織となし、之に依つて國民經濟の繁榮を欲求し實行した。此際に於ける國家の政策は主として資本主義的生產政策であつたから其結果は資本企業によりて困窮に陥れる勞働者階級を自覺せしめ、其處に勞働者運動を勃興せしめた。斯くて資本家對勞働者の階級闘争が段々と烈しくなるに及べば、先づ國家が一般秩序を維持する最も安全なる途は國家が此の闘争の上に超然たることである。次に國家が經濟秩序の破壊を防止し且つ之を進歩せしめようとする途は、從來の資本主義制を頑守することなく、勞働主義制に時代相應の待遇を與ふることである。千九百二十年、以太利に於て勞働者の工場占領が起つた時、政府は會社側の保護要求を斥けて嚴正中立を宣言した。工場財産の侵害に對し保護を與へざることを國家の中立と言ふは、如何にも奇妙に聞ゆるが、併し以太利當時の國情ではさまで不思議な譯ではなかつた。又國家が經濟秩序に立入りて工場法及勞働組合法を設

けて労働者を保護する——労働力を保護するのでなく——ときは、已に國家が資本家階級に專屬するものでないことが看取さるゝが、更に國家が工場協議會法及労働企業法を制定するに至らば、よし資本主義制が尙ほ主たる經濟組織として存在するとも、國家は決して本質的には資本主義國家でないと言ふことだけは明瞭に表示さるゝこととなる。

國民經濟が自然經濟たる時代は勿論であるが、意志經濟となりても最初は自然經濟の系統及秩序——資本主義制——を相續して意志統制の内容とする。其の傾向は暫らく繼續し、尙ほ國家は之を増長せしむる方策すら執つて居る。其際には國家意志——安全なる見解を採れば、交通經濟を統制する國家意志——と資本主義者の階級意志とは正しく重なり合つて一體の如く見える。否、現象的には一物である。此の國家が内に在つて資本主義組織を保持するのみならず、外に對して資本主義的活動を行ふ。財閥資本主義者は資本家的利益のみを目的とし、其利益の爲めには國民經濟上の系統及秩序に順應するが、利益に反する場合には出来るだけ其の系統及秩序に對する服従を避けやうとする。其等の人々が世界到る所に利潤源を求むる行動は全く萬民經濟的である。國家が此の財閥資本主義者と同伴し對外的に國家資本主義の政策を執るときは、其處に國家と國家とが接觸する。而して國民經濟は國家の意志統制の支持する所であるから、財閥及國家資本主義を合せたる萬民資本主義は各國民經濟を密接に關聯せしむる結果を生ずる。此の關聯狀態

には能動國民もあり所動國民もあり、英米の如き提携に傾くものもあり、英獨又は佛獨の如く競争し抗争するものもあり、東歐及支那に於けるが如く列國の利益争奪戦もあるが、孰れにしても各國民經濟が結付けられて或一定の交通系統及秩序の下に入込むのである。

此の國民經濟の關聯は外形に於ては國際經濟に酷似して居るが、其實質は全く別箇のものである。國際經濟は國民經濟を構成單位となし、各國民經濟が相互の交通に由りて其國民的要求を意志的に實現しようとする關係の上に成立する。其處には各國民の生活上の相互依頼が存し、其爲めに國家の作用意志の結合に由つて半成的ながらも國際團體意志を生じ、各國家は其の統制に服従する。然るに資本主義に由る國民經濟の萬民的關聯は、單に財閥資本主義の萬民經濟に於ける交通系統及秩序が延長されて國民經濟の關聯狀態を生じたるに止まるのである。萬民資本主義は國際法の認むる國民の資本所有及び賃勞働と世界の貨幣交通及び自由交通とを基礎として存立し、財閥資本主義者が資本主義國家——従つて其國家に率ゐらるゝ國民經濟——を伴ふて謂ゆる世界的資本戦の舞臺に立つのである。此舞臺には何等の意志統制も行はれないで、其處に行はるゝ活劇は全く自然の交通系統及秩序に委ねられてある。國際經濟にありては、已に一二の強大なる國民が他の國民を壓倒的に支配することは出来ないやうになつて居る。然るに國民經濟の萬民的關聯にありては、雄大なる資本國民——若くは富源國民——は他の弱小資本國民を嚴しく支配

することが可能であり、又屢々其の危険さへも見て居る。蓋し國際關係に於ては已に意志法則たる正義の力が或程度まで頭を擡げ、微力ながらも司法裁判所すら出來上つて居るが、萬民關係にありては唯だ優勝劣敗の自然法則が流行するに止まるからである。此の國際關係と萬民關係との區別は輕々しく看過されてはならぬ。試みに一例として、今日の支那が、あのやうに國內の混亂を續けながら而かも對外的には泰然自若として強大國の態度を執り居れるは、果して何の故なるかに想到せよ。支那は國際關係に於て強國の壓迫を寛められ、萬民關係に於て彼の巨大なる富源を懷き、此の双方より推されて自ら強むることなく一舉して強國となつたのである。而して支那と對比して見たる我國の地位は如何。

資本主義の勢力は偉大である。小は工場に於ける箇人經營より、大は世界に於ける國民經濟の關聯に及ぶ。「ブハリン」氏が「變轉期の經濟學」に於て、「世界經濟は實在する、其は世界に於て國家的資本主義的統一經濟を構成單位とする盲目的・無政府的・不合理的組織である」と言つたのは、確かに實在するものを看取したのである。併し氏の世界經濟と稱するものは私より見れば唯だ資本主義の上に立つ國民經濟の萬民的關聯に過ぎない、世界經濟は其だけにては形態を完成しない。

資本主義は已に國家の意志統制の中に收められて來たが、元を正せば自然社會の產物であり、

團體意志の創造物でない。自然の現象は又自然に變轉する。此の變轉の反對極に現れたるものが勞働主義の運動である。此の運動は初め小なる工場争議より起つて全國的に擴大したるも、國家が資本主義に加増し勢の不可なるを知つて遂に世界的團結運動に進み出た。此の運動には急進漸進の別あるも、歸する所は現實の國家を經由せず、直ちに勞働者階級の勢力を以て勞働主義の經濟組織を打建てようとするにある。斯かる勞働主義運動は明かに萬民的運動であり、萬民經濟上の現象である、歐語にて「インターナショナル」と呼ぶも國民 國民との間に立つ關係ではない。萬民經濟上の資本主義の支配は正しく萬民經濟上の勞働主義の運動と對立し、實は前者が後者を喚起したのである。而して前者が國民經濟の萬民的關聯を生ぜしめたる如く、後者も亦同様の事態を發生せしめたるが、勿論、一は現實の支配力であり他は之に對する反抗力であるから、其の關聯の内容は相違して居る。國民經濟が全く資本主義制に覆はれ居る時代に於ては、國家は概ね勞働者の萬民的運動を壓抑し居たるが故に、國民經濟の萬民的關聯は唯だ消極的意義を有するに過ぎなかつた。やがて國家が交通經濟上の統制に就き獨自の意志活動を執らふとする方向に傾くに従ひ、勞働者の萬民的運動も次第に國家及び國民經濟を働かし得るやうになり、勞働主義を部分的に承認せしむる點に於て各國民經濟を同一方向に誘致しつゝある。其處に勞働主義に由る所の國民經濟の萬民的關聯が積極的に認められ得る。勿論此の場合は、資本主義が現實の經濟

運営を支配すると異り、寧ろ其の現實の支配を牽制するに止まるものであるから、國民經濟の關聯狀態も亦單に國民經濟の勞資の鬭争に對する態度の變化に伴ふて局部的に漸進するに過ぎない。尙ほ又此處に言ふ國民經濟の關聯は資本主義に就て見たると同様に全く自然的關聯に過ぎない。彼の國際經濟方面に於ける國際勞働者保護の經濟立法は此の自然的なる國民經濟の關聯が部分的に意志活動として現はれ來れるものである。

以上述べたる如く、國際經濟交通が發展するときは、先づ世界を範圍とする各箇經濟の相互交通が起り、次に其が發展して地上の各部に亘り自然的に系統及秩序を生ずるとき其處に萬民經濟を成立せしめ、終に萬民經濟は轉じて各國民經濟を包括し、自然的に其等を萬民的關聯に導き行く。斯の如く國民經濟の萬民的關聯を隨伴する萬民經濟の自然的交通系統及秩序の系列は之を萬民經濟方面と名づくる。之を方面と言へるは先きに國際經濟方面に就て言へる如く、此の系列が彼の系列と共に世界經濟を成立せしむる内容の一方面をなすからである。

萬民と云ふ言葉は極めて古い時代から存して居たが、却つて今日に於て忘れられたかのやうな觀がある。古の天下萬民と言へるは全人類を統一的に考へたる觀念であつて、孰れかと云へば政治上又は宗教上の理想の對象とせられ其だけ實在感が弱かつた。後に民族國家が旺盛となるに従

つて此の理想の對象は次第に視界から遠ざけられた。然るに之と反對に、近代に於ける通運機關の進歩は我等に世界のあらゆる地方に於ける住民の生活状態を知らしめ、近代人となりて始めて萬民の實在感が確かとなつた。萬民經濟は此の實在感の上に確實に思念せらるゝ。但だ此の實在感も、一般人の立場からは今日未だ全人類と言ふ新しい理想の對象に導かるゝに至らない。殊に經濟生活に就て斯く言へる。従つて萬民經濟方面の特色は、主として箇人の立場から、其經濟的欲求を世界の範圍に於て實現しようとする人々の交通關係が、自然的に一定の系統及秩序を成し來つたと言ふ點に存するのである。

然らば此の萬民經濟方面は如何なる根據に依つて存立し、又如何なる境界に依つて同じ世界を範圍とする所の國際經濟よりも別箇の存在を保ち得るのであるか。

萬民經濟方面は國際經濟方面と酷似し、二者を區別することは或は餘りに人爲的概念を弄するものではないかと言ふ批難を豫期しないでもない。併し此の區別は複合團體——團體を以て組織さるゝ一層大なる團體——の成立過程を明かにして世界經濟の特質を了解する上に於て必要である。單に地域の點より見れば、世界の土地及人口は皆孰れかの國家に屬し、國家の統制領域にある交通經濟が國民經濟であり、其國民經濟の交渉聯結が國際經濟であるとすれば、其外に別に萬

民經濟なるもの、存在する餘地は無いやうに見える。されど我等が交通經濟の依つて立つ所を人間生活の境涯に求め、其境涯は體としての人間の連続關係及び用としての生活の交渉關係にあるとなし、其の連続關係及び交渉關係が如何にあるかの内容を考へ、而して交通經濟の系統及秩序の實質的限界如何を觀察するならば、其處に國際關係と異なる所の萬民關係を發見し得るであらふ。現代の國民經濟は國家の意志統制に依る所の交通系統及秩序を具ふるものであるが、國民の經濟交通行爲が擧げて國家の定むる左か右かの規準に従つて行はるゝ譯ではない。即ち其等の中には國家の制規に従ふものと國家から自由に放任さるゝものとの別がある。國民經濟に於ける人々の自由交通の範圍は今の露西亞を除いては可なり廣汎に残されて居る。國民經濟が自然經濟から意志經濟に移れる際には、概ね自然の交通系統及秩序を其のまゝに意志統制の内容となして其以前の自由状態を認容し、國家は唯だ此の内容を變更し得る地位に上るのである。此状態は一種の相續關係であつて、相續人たる國家は被相續人たる自然が與へ居たる謂ゆる自然的自由の系統及秩序を、國民經濟上の目的に従ひ必要に應じて漸次に變更する。併し此の變更も、多種の經濟行爲に共通なる準則を定めて概括的に之を拘束するに止め、各種の行爲に一々の制規を設けないのを通例とする。尙ほ國家が一般的に意志統制を行ふとは言ひながら、其の意志力が強さに於て社會の自然力に及ばざる交通の方面にありては、國家は已むを得ず之を自然の成行に放任する。

斯かる事情に由りて國家の意志統制と雖も私人の行動に一々規矩を當て、拘束する譯ではなく、私人の自由行動の範圍は頗る廣きに及んで居る。斯くて人々の經濟交通行爲は一樣に國家意志に依る交通系體及秩序の中にありながらも、一方では國家の定むる制規に則り又は之に添ひて、意識的趣向に於て將た双關的及因果的關係に於て、國民的に、從つて國際的に、他の國民と連續關係を結び且つ交渉關係を生ずるが、他方に於ては自由行動の範圍に於て、例外的には國家の制規に反してまでも簡人的に、從つて萬民的に世界のあらゆる人々との間に於て連續關係を結び且つ交渉關係を生ずるのである。又斯の如き差別は常に私人に就て見るのみでなく、國家及之を中樞とする國民經濟までも、一方では國民意志を意志的——作用意志的——に結合せしむる所の國際的連續及交渉の關係を生ぜしめ、他方では國民經濟を自然的に關聯せしむる所の萬民的連續及交渉關係を生ぜしむるのである。國際の語は國民間の關係に用ゐらるゝが、私は此の關係を地域的に見ないで社會的に見る。從つて私は此の見地から、國際關係の外に萬民關係が存すると見るのである。

前期國民經濟の時代と雖も國民經濟及之を構成せる人々の間には密接なる交通關係が成立し居たるも、其を國際的と言ふもよし、萬民的と言ふもよし、特に二者の間に區別を設くる必要がなかつた。蓋し其處には自立的國民經濟の限界を定むる交通經濟上の意志が存しなかつたからであ

る十九世紀の英吉利國民經濟の如きは已に後期國民經濟に入れるも、其經濟組織は自由交通を原則とし且つ實際に於て列國中最も廣き自由を許容して居たから、現象の外形に於ては前期國民經濟と殆ど擇ぶ所がない。其故に——其外に國民の經濟的勢力の強大なること及び英吉利の領地が世界の各方面に存したることも與つて力あるが——英吉利の側より見れば、其國民の對外交通は英吉利國民經濟の擴張の如く考へられ、國境は政治的には明瞭なるも經濟的には極めて輕い意味を持つに過ぎなかつた。これ英吉利の經濟學が長い間、一般經濟學的抽象論に偏つて居た有力なる原因である。斯かる見地の下には無論、國際經濟と萬民經濟との差別は認識され難い。國家が意識的に交通經濟上の系統及秩序の變更に志ざし、特に基本的經濟組織に就て考慮するやうになれば、國民的色彩が自ら鮮明となり、均しく國境を越へて行はるゝ經濟交通であつても、國民を成立基礎及び構成要素となす所の系統及秩序は國際經濟方面に屬し、人類普通の經濟的性質及び世界的通路の開展を基礎として其上に立つ所の系統及秩序は萬民經濟方面に屬し、其々分野を異にすることゝなるのである。(未完)